

問1 5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。（2020年 三重公立入試 類似）

1. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。
2. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
3. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
4. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。

問2 大和政権（ヤマト王権）において、朝鮮半島から移り住んだ人々の知識や能力が、政権の運営にどのように活かされたか。当時の記録や実務に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。
2. 九州北部の沿岸部で、唐や新羅などの外国勢力の侵攻を監視・防衛する軍事的な役割に特化した。
3. 将軍から土地の支配権を認められる代わりに、軍役や番役を果たす主従関係の基盤となった。
4. 独自の文字を開発することで、それまで口伝のみであった日本の神話を初めて文字で記録した。

問3 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したのとして、最も適切なものを選びなさい。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。
2. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。
3. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。
4. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆が大規模な土木作業に動員できるようになった。

問4 5世紀の大和政権は、朝鮮半島から得た鉄資源をどのように活用して国内の支配を広げたとされていますか。当時の状況を説明したのとして最も適切なものを選んでください。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。
2. 鉄製の鏡や装飾品を大量に作り、それらを各地の豪族に配ることで宗教的な権威を認めさせた。
3. 鉄製の貨幣を鑄造して全国に流通させ、租・庸・調の税制を確立することで経済的に支配した。
4. 鉄製の大型船を建造して中国の唐と直接貿易を行い、最新の法制度を取り入れることで中央集権化を進めた。

問5 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術
2. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度
3. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み
4. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度

問6 5世紀頃、大和政権は近畿地方から遠く離れた地域まで勢力を拡大しました。各地の有力者の墓（古墳）から、当時の王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見されている事実は、当時の政治体制についてどのようなことを示していますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。（2017年 愛知県公立入試 類似）

1. 地方の有力者が、大和政権を介さず独自に大陸と外交を行っていたこと
2. 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと
3. 仏教の伝来によって、全国の有力者が同じ信仰を持つようになったこと
4. 征夷大將軍が派遣され、東北地方まで完全に平定されたこと

問7 5世紀に「倭の五王」が中国の南朝へ繰り返し使者を送り、朝貢を行った背景や目的についての説明として、最も適切なものを選択してください。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。
2. 冠位十二階や憲法十七条などの新しい制度を導入するため、先進的な政治体制を直接学が官僚を派遣する必要があったため。
3. 白村江の戦いでの敗北を受け、唐や新羅による日本侵攻を防ぐために、中国との友好関係を急いで構築する必要があったため。
4. 日本独自の元号を定めるにあたり、中国の皇帝から許可を得ることで、東アジアにおける地位を確立しようとしたため。

問8 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬公立入試 類似）

1. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
2. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している
3. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
4. 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 2**
ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
- 大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
- 問2** **答え 1**
文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。
- 渡来人は優れた技術者であるだけでなく、文字や計算に精通した知識人でもありました。大和政権は、彼らを「史（ふひと）」として起用し、記録の作成や、貢物（税）の管理などの高度な事務・財政実務を担当させることで、政権の統治機構を強化しました。これに対し、防人は主に東国から徴収された兵士が九州の警備にあたった制度であり、御家人は鎌倉時代の武士を指すため、時代や役割が異なります。
- 問3** **答え 1**
「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。
- 巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。
- 問4** **答え 1**
鉄製の武器や鎧を量産して軍力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。
- 5世紀の歴史年表や出土品からは、大和政権が朝鮮半島から得た鉄を利用して武力を強化し、その力を背景に関東や九州の豪族を従えていった過程が読み取れます。武人の埴輪が鎧をまとった姿で製作されていることも、武力による支配体制が整えられていたことを裏付けています。
- 問5** **答え 1**
金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術
- 渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
- 問6** **答え 2**
大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと
- 大和政権は、軍事力や外交力を背景に地方の首長たちと主従関係を結び、自身の統治体制に組み込んでいきました。有力者の墓から出土した銘文入りの鉄剣などは、地方首長が大和政権に従う代わりに、その土地の支配権を保証されたという政治的な結びつきを証明するものです。これにより、当時の日本列島において広域的な政治連合が形成されていたことがわかります。
- 問7** **答え 1**
中国の皇帝から称号を授かることで、国内の豪族に対する統治の正当性を高め、朝鮮半島南部における軍事的な立場を有利にするため。
- ヤマト王権の王たちは、中国の皇帝から「安東大將軍」などの高い称号を得ることで、日本国内における絶対的な権威を確立しようとしました。また、当時の朝鮮半島では高句麗や新羅、百済が対立しており、その中での軍事的な優位性を国際的に承認させる狙いもありました。
- 問8** **答え 1**
人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
- 古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。